

日本医史学雑誌 第61巻 総目次

原 著

- 精神予防性無痛分娩法をめぐる産婦人科医たちの論争
 ——1954～57年の産婦人科学術雑誌上で展開された議論の分析と検討——
 藤原 聡子, 月澤美代子 131
- 「近代の明治女医」誕生の経緯と背景
 ——『吾園叢書』所収の1881（明治14）年「中央衛生会臨時会議事録」と
 内務省衛生局史料より—— 三崎 裕子 145
- 明治16年と同21年の上申書からみた明治天皇皇子女夭折問題 深瀬 泰旦 163
- 18世紀以前ヨーロッパにおける医学実地書の系譜
 ——起源から終焉まで—— 坂井 建雄 235
- 明治天皇皇子女夭折の死因について 深瀬 泰旦 255
- 第二次世界大戦における日本赤十字社の衛生支援
 ——ビルマ派遣救護班にみる制度と実態—— 川原由佳里 337
- ビルマ敗退戦と赤十字の看護 川原由佳里 355
- 明治初期日本における認定産婆教育の導入
 ——東京府病院刊行『朱氏産婆論』のドイツ語原著“Lehrbuch der
 Hebammenkunst”との比較分析と同時代史的背景—— 月澤美代子 373

総 説

- サレルノ医学校——その歴史とヨーロッパの医学教育における意義 坂井 建雄 393

研究ノート

- 華岡家門人録の特徴について
 ——出雲国の門人37人の分析を通して—— 梶谷 光弘 409

ひろば

- 緒方洪庵が武谷椋亭（祐之）に宛てた書簡（安政4年12月20日） 中山 茂春 267
- 合水堂・華岡流外科顕彰碑と近畿大学医学部図書館華岡流医療機器資料室
 竹中 裕昭 423

資 料

- 三浦謹之助留学中書簡 三浦 恭定 179
- 池田文書の研究（51） 池田文書研究会 199
- 18世紀以前ヨーロッパにおける医学実地書とその著者 坂井 建雄 273
- 池田文書の研究（52） 池田文書研究会 299
- 池田文書の研究（53） 池田文書研究会 427

青山胤通家関連文書(1)……………青山文書の会 437

追 悼

光芒六十年 寺畑喜朔先生への挽歌……………正橋 剛二 209

戸出一郎先生を偲んで……………西巻 明彦 447

記 事

例会記録……………211, 309, 449

例会抄録

近代医学の145年——日本近現代医学人名事典の人々——……………泉 孝英 212

精神病学と法医学とのあいだ……………岡田 靖雄 213

緒方春朔にみる人痘法の実際……………西巻 明彦 216

東京医科歯科大学創立者 島峯徹によるアイヌ人の口腔内調査について

——発見された90年前の研究誌「純粹『アイヌ』人の

口腔器関特に歯牙の研究」——……………鈴木浩一郎, 戸出 一郎 309

日本で最初に雇用された女性看病人について……………日下 修一 311

宇田川裕菴の写生図と植物標本……………加藤 僖重 312

中国医経の新研究……………真柳 誠 315

日本のワクチン産業史の新時代なのか?

——HIBワクチンの日本承認をめぐる——……………ジュリア・ヨング 316

動物用ワクチンの歴史……………平山 紀夫 318

日本医史学会平成27年3月例会

シンポジウム：産科と助産／現代の課題と医史学の観点から

1. シンポジウム「産科と助産／現代の課題と医史学の観点から」企画の趣旨
……………月澤美代子 319

2. 明治初期の産婆制度成立過程
——東京府病院産婆教授所と山形県の例を通して——……………高橋みや子 320

3. 「出生の場所」としての「病院・診療所」に従事する助産師の適正数,
養成数と職能の研究について……………藤原 聡子 322

4. 周産期医療の現状と東日本大震災の影響
——将来に向けた産科医・助産師連携の取り組み——……………佐藤喜根子 323

水島府県別生命表における刊行経緯・方法の変遷と生命表精度に関する認識
……………逢見 憲一 325

書 評

泉 孝英編『日本近現代医学人名事典』……………瀧澤 利行 217

サミュエル・ガス著, 西山 徹編訳, 高谷 修・服部典之・福本宰之訳,
岡 照雄序文『薬局——十七世紀末ロンドン医師薬剤師大戦争』……………鈴木 晃仁 218

武智秀夫著『軍医森鷗外のドイツ留学』……………山崎 光夫 221

渡邊洋子著『近代日本の女性専門職教育——生涯教育学から見た 東京女子医科大学創立者・吉岡彌生——』……………	三崎 裕子	222
米沢市医師会・米沢市上杉博物館 編『米沢藩医 堀内家文書』……………	海原 亮	326
瀧澤利行, 七木田文彦, 竹下智美 著 『雑誌「養護」の時代と世界——学校の中で学校看護婦はどう生きたか——』 ……………	平尾真智子	449
鳥井裕美子 著, 大分県立先哲史料館 編 『前野良沢——オランダ人のぼけものと呼ばれた男—— (大分県先哲叢書〔普及版〕)』……………	川崑 真人	450
書籍紹介		
家本誠一著『傷寒論 訳注』……………	西巻 明彦	224
吉元昭治著『日本の神話・伝説を歩く』……………	渡部 幹夫	224
古西義麿著『緒方郁蔵伝——幕末蘭学者の生涯——』……………	渡部 幹夫	225
藤倉一郎著『血圧測定之父——ニコライ・コロトコフ』……………	渡部 幹夫	226
真柳 誠 著『黄帝医籍研究』……………	天野 陽介	328
浅田宗伯 編著, 渡辺浩二 翻字校注『翻字校注 医学典刑』……………	天野 陽介	452
投稿規定……………	125, 227, 330, 454	
編集後記……………	127, 229, 332, 456	

第116回 日本医史学会総会・学術大会 演題目次

プログラム

会長講演

杏雨書屋のコレクション……………	小曾戸 洋	9
------------------	-------	---

基調講演

華岡青洲と麻酔……………	松木 明知	12
--------------	-------	----

市民公開講座

I 道修町 ^{どしゅうまち} の今昔……………	深澤 恒夫	14
II 近世大坂の医学——村落への浸透と継続……………	田中 祐尾	17
III 漢蘭折衷の医学……………	町 泉寿郎	19

一般演題

1 音楽家ヘンデルの医療福祉支援活動……………	柳澤 波香	22
2 シェイクスピアの危険ドラッグ……………	遠藤 花子	23
3 18世紀ロンドンの産科病院における入院産婦の状況 ——British Lying-in Hospital における産婦の入院生活を通して—— ……………	近藤さおり	24

4	被膜児伝説にみる胎盤の概念	内野 花	25
5	サレルノ医学校——その歴史と意義	坂井 建雄	26
6	ニコロ・マッサの解剖学——権威と新知見の両立	澤井 直	27
7	ニコラウス・ステノによる病理解剖 ——水頭症と奇形の原因について——	安西なつめ	28
8	フリードリッヒ II 世の皇帝の書	辰野 美紀	29
9	江戸中期に書かれた合田強の「西洋医述」を読む	板野 俊文	30
10	緒方洪庵が武谷棕亭(祐之)に宛てた書簡(安政4年12月20日)	中山 茂春	31
11	種痘をめぐる漢詩文——幕末期を中心に——	合山林太郎	32
12	オットー・モーニッケが見た幕末期の日本の医療	相川 忠臣	33
13	キリシタン迫害——雲仙地獄の場合:温泉科学の視点より	大沢 眞澄	34
14	明治初期日本の民衆への医療情報の普及 ——大阪・道修町の画作者・松川半山の人体像——	月澤美代子	35
15	長谷川泰の脳脊髄病治療に関する建議案	志村 俊郎, 都倉 武之	36
16	野口英世初恋の人 山内ヨネの医術開業後期試験合格期日をめぐる 新知見について	殿崎 正明, 山本 鼎	37
17	昭和17年開催・第11回日本医学会総会の総会講演について	渡部 幹夫	38
18	第66回日本精神神経学会総会(1969年, 金沢)	岡田 靖雄	39
19	戊辰戦争における衛生隊のはじまりと看病人役割の変化	鈴木 紀子	40
20	西南戦争が宮崎県の医療に与えた影響	大西 雄二	41
21	中国伝統医学と道教(第35回 道教を研究した先人達)	吉元 昭治	42
22	傷寒について	山田 恵美	43
23	疝について	川端かおり	44
24	徐嗣伯『風眩方』攷	永塚 憲治	45
25	『人元脈影婦指図説』の文献学研究	沈 澍農	46
26	『王叔和脈訣』の書誌について	水溜 亮一	47
27	『切紙』所載の脈法について	中川 俊之	48
28	趙開美『〔翻刻宋板〕傷寒論』の問題	真柳 誠	49
29	安政版『素問』の影響	吉岡 広記	50
30	国立公文書館内閣文庫所蔵の木活字版『黄帝内経』について ——呉悌本『靈樞』との比較——	竹内 尚	51
31	医学館旧蔵『鍼灸資生経』の鈔金沢文庫本について	宮川 隆弘	52
32	研医会図書館所蔵『眼科龍本論』収載の方剤について	安部 郁子	53
33	宋元以前の類書などに見える医経経文の総括	橋本 典子	54
34	『甲午筆乗』記載の医書と医学について	木場由衣登	55
35	小島蕉園の『蕉園漫筆』	松岡 尚則, 安部 郁子	56
36	近世藩立医育施設における西洋医学受容状況の分析	鈴木 友和	57

37	元明鍼灸書における鍼灸歌賦の採録数について……………	河内 輝美	58
38	『古今医統大全』の鍼灸について (第5報)……………	田中利江子	59
39	河野芸隣斎「龍頭内経序」について……………	寺川 華奈	60
40	喜多村直寛『黄帝内経素問講義』における押韻の指摘について……………	澤谷 直子	61
41	中神琴溪の子孫について……………	黒川 達郎	62
42	日本最初の医学士神内由己について……………	酒井 シヅ, 神内 國榮	63
43	杉田玄白との比較から再評価する山脇東洋の近代医学への功績 ……………	栗谷 圭二	64
44	米沢藩医 堀内素堂が重訳出版した「幼幼精義」の サクセラン訳原書とフーフェラント独語原著 ……	北村 正敏, 高橋 秀昭	65
45	日本とアメリカにおける全身麻酔法発見時の状況の比較 ……………	土手健太郎, 長檜 巧	66
46	齋藤 眞教授と「終末囊麻酔」 ——世界で最初の Saddle Block の提唱者—— ……	松木 明知	67
47	明治期の「養育院」の医師たち ……	稲松 孝思, 松下 正明	68
48	ベルツ博士の遺言「第一回聯合医師会での提言」 ……	山上 勝久	69
49	“Ludlow’s Manual of Medical Examinations, 1867” と 和訳本『医学七科問答』……………	樋口 輝雄	70
50	シュヴァイツァーに捧ぐ (没後50年記念) シュヴァイツァーに宿るゲーテの生への想い ……	鈴木 重統	71
51	富士川遊の人間観……………	土屋 久	72
52	1927年における津市立病院の女性医師採用 ……	佐藤ゆかり	73
53	第一次世界大戦時バリで活動した第四厚誼病院 (日本赤十字) ……	小林 晶	74
54	第一次世界大戦における病院船「八幡丸」の医療活動 ……………	柳川 錬平, 澤井 直, 坂井 建雄	75
55	占領期日本の「公衆衛生列車」運行に関する考察 ——「衛生展覧会」との関係について—— ……………	田中 誠二, 杉田 聡, 丸井 英二	76
56	占領期においてサムス公衆衛生福祉局長と面談を行った 日本人に関する考察 ……	杉田 聡, 田中 誠二, 丸井 英二	77
57	山口県美祿の医師浅山良輔と赤間関医学校……………	中澤 淳, 亀田 一邦	78
58	相良元貞 (相良知安の弟) のドイツ医学留学の足跡 ……	相良 隆弘	79
59	東洋女子歯科医学専門学校校長・宇田尚 (第1報) ……	永藤 欣久	80
60	クリスティアン・エイクマンの「ベリベリと食物」における 高木兼寛の兵食改革の評価 ……	山下 龍, 相川 忠臣	81
61	薬用の茶——蠟茶と香茶について……………	岩間眞知子	82
62	公家・山科言経の勅勘時代は医師であった ——『言経卿記』から読みとく—— ……	葉山美知子	83

63	桃山時代の薬進物：山科言経（1543-1611）の香薷散と その香薷散賦之衆	アンドリュウ・ゴープル	84
64	吉田流は16世紀の流派と認めがたい ——日本で独自に展開した腹部三腕穴からの考察——	長野 仁	85
65	大野松齋と積善社	鈴木 達彦, 荻原 通弘	86
66	『内経抜書』における疾病概念： 病因理論と『統医学至要鈔』「寛文配剤」との関連性	吉川 澄美	87
67	小石川養生所初期の医療活動	山口 静子	88
68	加古角洲吐方撮要攷	館野 正美	89
69	カタカナで名付けられた最初の売薬「ウルユス」について	野尻佳与子	90
70	江戸時代中期の談義本『医者談義』（1759）にみる病家への教訓	平尾真智子	91
71	「断毒論」にみる「温疫論」の影響	西巻 明彦	92
72	大阪医蹟めぐりガイドの作成（第3報）	竹中 裕昭	93
73	『鍼灸五蘊抄』の選穴について	岩田源太郎	94
74	江戸前期経穴学における骨度について	鶴田 泰平	95
75	脚気に対する隔物灸	上田 善信	96
76	『外台秘要方』におけるいわゆる「経外奇穴」について	橋本 史代	97
77	はらわた紳士——散歩する人体解剖図とその系譜	竹原 直道	98
78	あん摩術指圧術とカイロプラクティックの関係	清野 充典	99
79	地域健康指標としての生命表の精度 ——沖縄の出生・死亡と平均寿命の長期推移の分析例——	逢見 憲一	100
80	福島令子（福島智・東大教授の母）が考案した 盲ろう（聾）者のための指点字	飯塚 修三	101

誌上発表

81	水穴五十七穴と『甲乙経』の主治の比較	齊藤 珠恵	102
82	「諸気」について	渡部 栄輝	103
83	『鍼灸則』の病門について	若林 研二	104
84	『鍼論』について	山崎 陽子	105
85	曲直瀬流の口訣・医案に注目した『和漢纂言要方』 『本邦名医類案』の解析	星野 卓之, 小曾戸 洋, 花輪 壽彦	106
86	『幼々新書』所引『千金翼方』の検討	堀田 広満, 小曾戸 洋, 花輪 壽彦	107
87	『奇疾便覧』に引用される症例について	周防 一平, 小曾戸 洋	108
88	和語としての気用語「気まぐれ」考	小曾戸明子	109
89	田村（津田）玄仙による学校設立の試み	加畑 聡子, 小曾戸 洋	110

- 90 「西洋医学」と「東洋医術」——雑誌『日本医学』掲載の
「将来の医学」座談会（1937年）から…………… 勝井 恵子 111
- 91 西鶴作品にみる身体に関する語（三）…………… 計良 吉則 112
- 92 医師としてのチェーホフ…………… 藤倉 一郎 113
- 93 中日古医籍索引の史的考察…………… 郭 秀梅 114
- 94 散鍼について…………… 宮川 浩也 115
- 95 浅田宗伯編輯『皇朝医叢』について
…………… 渡辺 浩二, 天野 陽介, 小曾戸 洋, 花輪 壽彦 116
- 96 漢蘭折衷医学の人々とその蔵書…………… 清水 信子 117
- 97 日本医学会と日本医史学会
——日本医史学会はなぜ「第一分科会」なのか——…………… 津田篤太郎 118
- 98 常煎法の成立起源及びその経緯に関する研究
——江戸末期から昭和にかけて——
…………… 坂田 幸治, 大里真奈美, 花輪 壽彦 119